

世界初公開

所蔵館を
除く

真実の
フェルメール

VERMEER



壁にはキューピッドがいた。

17世紀オランダを代表する画家ヨハネス・フェルメールの《窓辺で手紙を読む女》は、意から差し込む光の表現、室内で手紙を読む女性像など、フェルメールが自身のスタイルを確立したといわれる初期の傑作です。1979年のX線調査で壁面にキューピッドが描かれた画中画が塗り潰されていることが判明、長年、その絵はフェルメール自身が消したと考えられてきました。しかし、その画中画はフェルメールの死後、何者かにより消されていたという最新の調査結果が、2019年に発表されました。本報では、大規模な修復プロジェクトによってキューピッドの画中画が現れ、フェルメールが描いた当初の姿となった《窓辺で手紙を読む女》を、所蔵館であるドレスデン国立古典絵画館でのお披露目に次いで公開します。

所蔵館以外での公開は、
世界初!

奇跡の一枚

大規模な修復プロジェクトが完了！
フェルメールが描いた幻のキューピッドが、
ついに姿を現した。

フェルメールの初期の傑作《窓辺で手紙を読む女》は、ドレスデン国立古典絵画館が誇る至宝のひとつです。この作品の手紙を読んでいる女性の背後の壁に、キューピッドの画中画が隠されていることは、1979年のX線調査で判明していました。そしてこの構図上の大きな変更を行ったのは画家本人であるというのが、研究者たちの考えていた。

2017年3月、ドレスデンで専門家委員会が招集され、作品の状態について議論を交わし、保存計画を作成。それに沿って、作品を覆っていた古いニス層を取り除き、汚れを落とす作業が開始されました。しかし、溶媒を用いてニスを取り除く作業を進めていた修復師たちは、あることに気づきます。キューピッドの画中画を上塗りした部分とそれ以外の部分で、溶媒への反応が違ったのです。そこで、絵具の微小なサンプルをいくつか採取し、科学調査を行った結果、キューピッドの画中画の上塗りが行われたのは、フェルメールが亡くなった後であるという事実が明らかになりました。

2017年12月、専門家委員会の提言を受け、所蔵館は手作業によって一部の上塗りの絵具層を取り除く作業を慎重に進めた結果、隠れていた画中画部分の状態は極めて良好で、フェルメールが描いた当時の状態を残していることが判明。この結果を受け、2018年2月にすべての上塗りを取り除くことが決まり、2021年9月、長い修復を終え、画家が描いた当初の姿が所蔵館でお披露目されたのです。

《窓辺で手紙を読む女》 修復プロジェクトの過程をご紹介します

上塗りされた絵具層を慎重に取り除き、
徐々に姿を現していくキューピッド。
その修復の過程を、映像やパネル等でご紹介します。



X線の調査画像
© G. van der Meulen, S. Meentemeyer, K. van der Meulen
Foto: Art Museum of the Dresden © 2021 photo: W. Knieke



修復作業の様子
© 2021 photo: G. van der Meulen



修復作業の様子
© 2021 photo: G. van der Meulen